

リレーエッセイ「心に残るあの句・あの時」②

たかが俳句、されど俳句

府中市立府中第十小学校 菅原 晋也

あきの空まるいどんぐりばくのかお

1年生の時に担任をしたH君の句です。入学してから夏過ぎる頃まで、H君との格闘でした。すぐに教室を飛び出す。全校朝会は、並ばず、校庭を走り回る。教室では、担任の目を引くために、舌の上に画鋲を載せて見せたり、糊を食べたり…。

ある時、彼の句が、読売新聞「KODOMO俳句」欄（選者 高柳 克弘氏）に掲載されました。「俳句って、面白いね。」こんな会話が出来る頃には、以前のような行動をすることは、なくなっていました。時々、廊下で擦れ違う彼も、今は、九九を頑張っている2年生です。



### 俳句勉強会紹介

俳句作りの楽しさを私たち教師も体験する活動が、本会の「俳句勉強会」です。毎月第一木曜日、午後六時半～八時、江東区立八名川小学校で行っています。俳句勉強会の高得点句を紹介します。

### 十月俳句勉強会

ゴール決め少年秋の風になる 荒井ヘルエ  
ごんぎつね隠れていそう彼岸花 黒崎喜代美  
秋日和彼氏ができたという五歳 阿部郁恵  
校帽の色あせていき夏終る 舟山由美子

### 十一月俳句勉強会

綾取の指に小春日絡みつく 金子 嵩  
釣りもする島の遠足秋日和 永海尚二  
弁当にふりかけて喰う山の秋 土田明人  
こすもすに小指絡めてみる勇氣 渡辺樹音  
コスモスやミンシンの音の日曜日 山本 新

### 一月俳句勉強会

冬の窓子どもにとつては自由帳 江川慶伍  
透き通る街そこからは初筑波 松本芳明



### 【編集後記】

秋あかねよるこんでるよ飛んでるよ

長男誕生の折、教え子のK君から届いた絵葉書に記されていた俳句だ。秋の夕空に浮かぶ秋茜の絵も丁寧に描かれていた。報せを聞いて一生懸命描いてくれたのだろう。思いを十七文字にのせて届いた葉書は、新たな生命を授かった私の胸に響いた。同時にその子の内面に俳句が在ることが、教室で俳句に取り組んだ日々を思うとじわりと嬉しくなった。

友達、家族、先生等、自分と誰かとの繋がりを感ぜられるところも、学校俳句の良さであろう。俳句のたねを日曜日の家族に探す時、句会で友達の句に出会う時…。

誰かのために詠む俳句というのもありかもしれない。写真立てに収まったK君からの絵葉書を見つめながら、学校俳句の可能性に思いを馳せた。

新年を迎え更なる一歩を進められるよう、皆さんと共に頑張りたいと思う。下山桃子

### 【日本学校俳句研究会】

<http://gakkohaiku.sitemix.jp/>  
連絡先：江東区教育委員会学校支援課  
小山正見 [oyanamasami@gmail.com](mailto:oyanamasami@gmail.com)

### 学校俳句研究⑥

発行日 平成二十六年一月二十三日 / 日本学校俳句研究会  
◆代表者☆小山正見 ◆編集者☆山本新 松本芳明 下山桃子

# 学校俳句研究 No. 6

☆日本学校俳句研究会☆会報 平成26年1月

## 明日からできる俳句指導実践

日本学校俳句研究会 幹事 大熊 拓

今日も教室で、テストを早く終えた子が俳句を作っている。机から俳句ファイルを取り出し、指を折って俳句を考えている。時には教室の天井を見ながら、時には窓の外雲ひとつない空を見ながら、子どもたちが見つめた先にはどんな俳句ができるのだろう。

子どもたちに俳句を作らせるには、俳句を作りたいと思わせるきっかけが大切である。俳句を作ってみようという気持ちを起こさせることができれば、後は子どもたちが自由に言葉で十七音にのせて俳句を作り始める。そのための明日からすぐにできる俳句指導を六年間にわたり実践してきた。

まずは、俳句の基本である十七音で遊ぶことである。五・七・五ゲームをしたり、十二音の言葉に、五音の言葉をつつけてみたり、十七音のリズムに慣れさせることが大切である。その後は、十七音の中に季語を入れることを伝える。子どもたちがそこまでできたら、そこからは教師の腕の見せ所である。作品の内容を問わずとにかく褒めることが大切である。俳句の形ができただけでも大いに褒める。情景が伝わってくるような作品なら、少しオーバーなくらい褒めたおす。教師が褒めることが、子どもたちが俳句を作り続けていく上での何よりのきっかけになる。

しかし何より大切なのは、いつでもどの機会でも、俳句を作らせていくことである。日記を俳句にしてみたり、友だちの作品を評価し合ったりする機会を定期的に設けていくことが大切である。変わりゆく日々の中で、今しか作れない俳句がある。そのためにまた明日から俳句指導を行っているながら、これからも子どもたちと俳句の楽しさを共有していきたいと思う。

(足立区立六木小学校)

## 小山正見先生の授業のこと

『十七音の贈り物・今日も俳句の風が吹く』

「小さい山に正しく見る、全部一年生で習う漢字でしょ。やさしい漢字、やさしい感じの小山先生です。」おきまりの自己紹介に子どもたちの表情が緩む。そして教室にある緊張感がほぐれていく。

小山正見先生は本会の代表である。江東区立八名川小学校の校長先生を退職されてから区の教育委員会に勤務し、各学校へ赴いて年間五百時間近い俳句指導を行っている。私も同行して指導のお手伝いをさせていただいているので、今日は小山先生の俳句授業の様子を紹介したい。

小山先生は、初めての俳句授業で、まず子どもたちに『俳句』について知っていることをたずねる。「五七五」「季節の言葉」などという返事がくる。「知っている季節は？」と問いかけると、雪・クリスマス・みかん：など季節に応じていろいろと飛び出す。「えーっと」と子どもがいうと「えーっとは季語じゃないよー」と言って笑い

をとる。少しでも面白い発言や他人と違った発言をした子のことを「いいねえ」とほめては握手をする。『俳句』という少し窮屈なイメージがどんどん崩されていく。

「はい、では三秒でできる俳句教室の始まり始まりー」小山先生の言葉に子どもたちは一斉に驚く。題して、『朝食俳句』。

今朝何を食べたかを子どもたちにたずね、それを基に先生が二、三句手本を見せる。

「おにぎり一つだけ」なんていう子にも、「どんなおにぎり？」と問いかけて、でき

あがる句は――【梅ぼしのおにぎり一つ冬の朝】【みそ汁となつとうごはん冬の朝】――

「一つのを詳しく書いてもいいし、二つの情報（もの）をいれてもいいね、最後は『冬の朝』だけど、『冬の夜』にすれば夜ご飯のこともいいし、食べたことではなくてしたことでもいいよね。」こんな具合に、どの子でも作れることを大前提に俳句の授業は進む。身近なことから、自分の生活を見つめさせると、ぐんぐん内容が深まっていくから子どもはすごい。

季節によっては校庭やビオトープ、近隣の公園を観察したり、シャボン玉や一輪車などで遊んで俳句を詠む。そんな『遊んで俳句』に子どもたちは驚き喜ぶ。小山先生は、子どもたちを引き込むのが実に巧みだ。俳句の中七が八になってもOK、少し笑えるような内容でもOK、楽しいのが基本。俳句授業で小山先生が重点を置かれて

いるのが句会。上手下手を競い合うのではなく、友だちの気持ちを読み、友だちの良さを認めあう心の交流の場となる。

小山先生は教室内をまわりながら、声をかけるべき子に声をかける。「話は耳ではなくて目で聴くんだよ」そんなことを話された時には、こちらもドキッとすする。時折、児童に話しているように見せて、大人（つまり先生）に話していることがある。実はそれが小山先生からのもう一つの贈り物である。小山先生からの置きみやげは、包装紙に包まれてなければ形もない、子どもにも私たちにも届く、素敵な贈り物である。

（日本学校俳句研究会…阿部郁恵）

# 第十一回学校俳句交流会報告

平成25年12月3日(土)

## ①「明日からできる俳句実践指導」

足立区立六木小学校 大熊拓氏

まず、大熊先生は俳句指導の六つのステップを紹介しました。①五七五のリズム、②季語、③楽しいなきれいだからの脱却、④取り合わせ俳句へのチャレンジ、⑤学級句会、⑥コンテストへの応募、です。ポイントは、いつでも楽しく褒めること、上手くできなくても粘り強く指導すること、たくさん作って慣れさせること、だそうです。その上で、大熊先生が教室で実践している様子を豊富なワークシートや、実際の指導の写真等を紹介しながら楽しく教えてくれました。

## ②「子どもの俳句と俳句の未来」

俳誌「鷹」編集長 高柳克弘氏

続いては高柳克弘氏の講演です。高柳さんは、俳句は「姿先情後」の文学だといいます。すなわち姿をまず言葉で表現することで、おのずと気持ちも表現できるのだと。景色をどう表現するかが大切だと

と力説され、たくさんの俳句を例として紹介してくれました。

たとえば「印象明瞭」な近現代の俳句として、

夏草に機関車の車輪来て止る 山口誓子  
二十のテレビにスタートダッシュの黒人ばかり

少女みな紺の水着を絞りけり 金子兜太  
等を、さらに、ご自身も審査員として関わっている「俳句甲子園」の優秀賞や入選句からは、

夕焼けや千年後には鳥の国 青本柚紀  
夕焼けやいつか母校となる校舎 大池莉奈  
親指を血はよく流れ天の川 吉井一希

等を紹介してくれました。

俳句とは何か、俳句をどう詠むか、俳句に日々関わっている実作者だからこそ言える俳句の真髄をとても分かりやすく教えていただき、まさに目から鱗が落ちるお話でした。

## ③句会の方法と実際

実際にその場で俳句を作って模擬句会もしました。高柳さんに全句講評してもらおうという大変贅沢な句会となりました。

当日出された全句を紹介します。最高得点句はなんとこの日に初めて俳句を詠んだ葛飾の牧野大冨先生と江東の原田恵先生でした。●は高柳さんが採られた句です。

- 冬夕焼け砂のまんまのひざこぞう
- 小春日や百人一首を競う子ら
- 冬空や先生今日も怖い顔
- 中休み冷えた鉄棒逆上がり
- 展覧会歩道に並ぶ二輪の列
- 街路灯温水プール冬の風
- 給食に名残を惜しむ冬休み
- 鍵盤に映る青空レノンの忌
- ガイコツの見慣れてしまいう十二月
- 新任の教師兎を渡さるる
- 先生が読むとんち話冬の午後
- シスターの金歯煌く聖夜劇
- 主役なし夕日の教室賀状書く
- 俳句よむ子らと共に枯葉舞う
- 図書室の絵本どっさり山眠る
- この子らに平和よ続け冬の校庭
- 冬の日指を使って繰り下がり
- 通学路乳白色の枇杷の花
- かけ算がろう下にひびく冬の朝
- 校庭の白線に立つ木枯
- 冬紅葉監視カメラがあるという
- 鉛筆の音だけ鳴りし神無月